

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年12月12日
【会社名】	ウインタテスト株式会社
【英訳名】	Wintest Corp.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 奈良 彰治
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市西区平沼一丁目2番24号
【電話番号】	045-317-7888（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 岡本 隆
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市西区平沼一丁目2番24号
【電話番号】	045-317-7888（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 岡本 隆
【届出の対象とした募集有価証券の種類】	新株予約権付社債及び新株予約権証券
【届出の対象とした募集金額】	その他の者に対する割当 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債 100,000,000円 第5回新株予約権 3,379,169円 新株予約権の発行価額の総額に新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額を合算した金額 403,999,169円
	（注） 新株予約権の権利行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した新株予約権を消却した場合には、新株予約権証券の発行価額の総額に新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額を合算した金額は減少しません。
【安定操作に関する事項】	該当事項はありません。
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

当社は、平成25年12月12日付で四半期報告書を関東財務局長に提出したことに伴い、平成25年12月6日付をもって提出した有価証券届出書について、当該四半期報告書を組込情報に追加し、必要な修正をするために、有価証券届出書の訂正届出書を提出するものであります。

## 2【訂正事項】

第三部 追完情報

第四部 組込情報

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_を付しております。

## 第三部【追完情報】

（訂正前）

### 2. 事業等のリスクについて

「第四部 組込情報」の第20期有価証券報告書に記載された「事業等のリスク」について、本有価証券届出書提出日（平成25年12月6日）までの間に新たに生じた事業等のリスクは以下のとおりであります。

また、当該有価証券報告書には将来に関する事項が記載されておりますが、当該事項は、以下の「事業等のリスク」に記載した事項を除き、本有価証券届出書の提出日（平成25年12月6日）現在においてもその判断に変更はありません。

### 4 [事業等のリスク]

有価証券報告書に記載した経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスク等ならびに投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、平成25年12月6日現在において、当社が判断したものであります。

#### (7) 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第5回新株予約権の割当予定先について

割当予定先であるOakキャピタル株式会社からは、当社株式の保有方針として、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権及び第5回新株予約権の行使により取得する当社株式を原則として長期間保有する意思を有しておりません。また、対応可能な限り市場に配慮した行使を行い当該行使の結果交付を受けることとなる当社株式について、市場動向を見ながら適時適切に売却する方針である旨確認しております。よって、今後において当社の経営体制に変更が生じる可能性は極めて低いものと考えておりますが、割当予定先が当社株式を長期間保有し続けた場合は、当社経営への関与や当社の経営体制に影響を与える可能性があります。

#### (8) 資金調達について

当社は財務体質強化等を目的として、平成25年12月6日開催の取締役会において、Oakキャピタル株式会社を割当予定先とする第三者割当による第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第5回新株予約権の発行を行うことを決議し、資金調達を行うこととしておりますが、第5回新株予約権については、その性質上、行使価額が市場価額を上回っている状況においては、行使が進まない状況になり、このような状況が継続する場合は、資金需要に沿った調達が困難になる可能性があり、その場合においては、当社の経営戦略の遂行に支障をきたす可能性があります。

#### (9) 株式価値の希薄化について

当社は財務体質強化等を目的として、平成25年12月6日開催の取締役会において、Oakキャピタル株式会社を割当予定先とする第三者割当による第1回無担保転換社債型新株予約権付社債及び第5回新株予約権の発行を行うことを決議いたしました。当社の発行済株式総数は49,274株であり、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権及び第5回新株予約権の行使により、それぞれ2,881株（議決権の個数2,881個）及び12,140株（議決権の個数12,140個）の合計15,021株（議決権の個数15,021個）の新株式が発行されることにより、発行決議日現在の当社の発行済普通株式総数49,274株（議決権の数は49,274個）に対して30.48%（議決権の総数に対する割合は30.48%）の希薄化率となることから、これらの新株予約権が行使された場合には、当社の1株当たりの株式価値が希薄化することになり、また株式市場での需給バランスに変動が発生し、株価へ影響を及ぼす可能性があります。しかしながら、当社といたしましては、今回の資金調達が新たな収益の柱を構築するための成長戦略を推進し、事業領域を拡大することが、経営の安定及び当社の企業価値の向上につながり、ひいては既存株主様の株式価値の向上につながるものであることから、株式価値の希薄化の規模は合理的であると判断しております。

#### (10) 新規分野での事業展開について

当社の高度な検査技術や画像処理技術を応用し、今後の市場拡大が見込める新規分野である医療関連分野及びエコロジー関連分野等での事業展開に着手いたします。具体的には医療関連分野においては、生体情報の測定、収集をセンサーで行う生体センシング機器や画像処理技術を生かした医療関連機器の開発、並びにエコロジー関連分野では電力マネジメント向け環境センシング機器の開発に注力してまいります。

なお、これらの新規事業を行うにあたり、当社では、当該事業の特質や必要とされる技術、採算性と収益性、市場や競合による事業リスク等を十分に検討した上で開始いたしますが、新規事業のため業歴は短く、また、事業採算性等を勘案した場合、当初期待した収益が得られない等の理由により当該新規事業からの撤退あるいは規模縮小などの経営判断をする可能性は否定できません。このような場合、当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

## 4．最近の業績の概要

&lt;以下省略&gt;

（訂正後）

## 2．事業等のリスクについて

「第四部 組込情報」の第20期有価証券報告書及び第21期第1四半期報告書（以下、「有価証券報告書等」という。）に記載された「事業等のリスク」について、本有価証券届出書の訂正届出書の提出日（平成25年12月12日）までの間に新たに生じた変更その他の事由はありません。

また、当該有価証券報告書等には将来に関する事項が記載されておりますが、本有価証券届出書の訂正届出書の提出日（平成25年12月12日）現在においてもその判断に変更はありません。

「4．最近の業績の概要」の全文削除

## 第四部【組込情報】

（訂正前）

次に掲げる書類の写しを組み込んでおります。

有価証券報告書	事業年度 （第20期）	自 平成24年 8 月 1 日 至 平成25年 7 月31日	平成25年10月25日 関東財務局長に提出
---------	----------------	-----------------------------------	--------------------------

（訂正後）

次に掲げる書類の写しを組み込んでおります。

有価証券報告書	事業年度 （第20期）	自 平成24年 8 月 1 日 至 平成25年 7 月31日	平成25年10月25日 関東財務局長に提出
四半期報告書	事業年度 （第21期第1四半期）	自 平成25年 8 月 1 日 至 平成25年10月31日	平成25年12月12日 関東財務局長に提出

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年12月11日

ウインテスト株式会社  
取締役会 御中

## 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 井上 隆 司 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上田 雅 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているウインテスト株式会社の平成25年8月1日から平成26年7月31日までの第21期事業年度の第1四半期会計期間（平成25年8月1日から平成25年10月31日まで）及び第1四半期累計期間（平成25年8月1日から平成25年10月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ウインテスト株式会社の平成25年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成25年11月12日開催の取締役会決議に基づき、資金の借入を実行しており、平成25年12月6日開催の取締役会において、転換社債型新株予約権付社債及び新株予約権の発行を決議している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。